

平成30年度事業報告

自 平成30年10月1日 至 令和元年9月30日

I. 展覧会

1. 第47回「日本の書展」直轄展

下記の直轄4展を開催。47回直轄4展の出品者総数は3,678名で、46回展の3,584名に比べ94名増加。入場者数は、直轄4展合計で14,922名、前回の14,526名に比べ396名増加。出品者数、入場者数とも増加している。

41回展（平成25年）から行っている、図録1冊（現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品と全出品者名簿を掲載）および出品者本人の作品ブロマイド2枚ずつの贈呈は、今展も引き続き行った。

また、43回展（平成27年）から各直轄展の会場内で出品作家（主に役員）を講師としての1時間程度のギャラリートークを行っているが、各会場とも通常の土日よりも集客数が増し、内容も好評だったため、今展も引き続き行った。4展とも80～210名の参加者があり、作品解説に加え、作家紹介や展覧会を訪れた際の作品の見方など、トーク内容も多様で大変好評だった。

全展の展覧会場、開催披露祝賀会会場には、「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録推進運動の一環として、ポスターおよびバナーを掲示し、引き続き広報活動を行った。

(1)関西展

会 期 令和元年5月3日（金・祝）～5月5日（日・祝）

会 場 マイドームおおさか（1、2階展示ホール A～D）

主 催 （公財）全国書美術振興会 産経新聞社

後 援 文化庁

協 賛 （公社）日本書芸院

開催披露祝賀会 令和元年5月3日（金・祝）12:30～14:00

シティプラザ大阪 2階 「旬」

出席者 373名

ギャラリートーク 令和元年5月4日（土・祝）14:00～15:00

マイドームおおさか（1階展示ホール）

講師 吉川美恵子評議員・現代書壇代表作家

関西展の出品数は、巨匠15点、代表100点、委嘱38点、招待432点、秀拔選526点、合計1,111点、会期中の入場者数は1,972名だった（前回46回展の出品総数は1,075点、入場者数は1,949名）。産経新聞社の紙面協力、日本書芸院の協賛も得ている。

前回同様、会場を大阪国際会議場からマイドームおおさかに、会期を5月の大型連休中に実施した。会期初日の5月3日（金・祝）の12時30分から、マイドームおおさか隣接のシティプラザ大阪2階「旬」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて373名の出席があった。祝賀会では、高木聖雨代表理事・理事長ならびに田中壮一郎代表理事・会長の主催者代表挨拶、産経新聞社事業本部長 伊藤富博氏から共催者挨拶があった後、文化功労者で日本芸術院会員の井茂圭洞名誉顧問による乾杯発声で祝宴に入った。

改元3日目、10連休中の開催となり、展覧会、祝賀会とも人の出足に影響があるか懸念していたが、共に前回をわずかに上回る入場者数、出席者数となった。

(2)中部展

会期／会場

第1会場 令和元年6月5日（水）～6月9日（日）

愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階）

現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱・招待・秀拔選（き～こ）を展示

第2会場 令和元年6月4日（火）～6月9日（日）

名古屋市博物館（3階ギャラリー）

秀拔選（あ～か・さ～わ）を展示

主 催 （公財）全国書美術振興会 中日新聞社

後 援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市

各県市教育委員会 東海テレビ放送

協 賛 （公社）中部日本書道会

開催披露祝賀会

令和元年6月5日（水）18：00～19：30

名古屋東急ホテル 3階 「ヴェルサイユ」

出席者 305名

ギャラリートーク

令和元年6月8日（土）14：00～15：00

愛知県美術館ギャラリー

講師 伊藤昌石委嘱作家

中部展の出品数は、巨匠15点、代表100点、委嘱18点、招待186点、秀拔選470点、合計789点、会期中の入場者数は2,853名（内訳：愛知県美術館ギャラリー1,868名、名古屋市博物館985名）（前回46回展の出品総数は801点、入場者数は名古屋市博物館2,244名）だった。中日新聞社の紙面協力、東海テレビ放送の放映協力、中部日本書道会の協賛を得ている。

愛知県美術館の改修工事が終了し、今年から借用はできたが、トリエンナーレ開催年だったためにギャラリー全室の借用ができず、名古屋市博物館との2会場開催で秀拔選作品を分けて展示した。

6月5日（水）の18時から、名古屋東急ホテル3階「ヴェルサイユ」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて305名の出席があった。祝賀会では、高木聖雨代表理事・理事長の主催者代表挨拶、中日新聞社取締役事業担当 鷲見卓氏の共催者挨拶があった後、樽本樹邨顧問の書家代表挨拶へと続き、東海テレビ放送株式会社取締役事業局長 山口貢氏の乾杯発声で祝宴に入った。

(3)東京展

会 期 令和元年6月13日（木）～6月23日（日） 6月18日（火）は休館日

会 場 国立新美術館（展示室1A・1B・1C・1D）

主 催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社

後 援 文化庁

開催披露祝賀会

令和元年6月14日（金）12：00～13：45

パレスホテル東京 2階 「葵」

出席者 563名

ギャラリートーク

①令和元年6月15日（土）14：00～15：00

国立新美術館 展示室

講師 宮負丁香評議員・委嘱作家

②令和元年6月22日（土）14：00～15：00

国立新美術館 展示室

講師 齊藤紫香委嘱作家

東京展の出品数は、巨匠15点、代表101点、委嘱46点、招待684点、秀拔選798点、東京展合計1,644点、他展の委嘱（関西展委嘱38点・中部展委嘱18点・九州展委嘱10点）も加わり総展示数1,710点、会期中の入場者数は8,597名だった（前回46回展の総展示数は1,630点、入場者数は9,008名）。

会期2日目の6月14日（金）の12時から、パレスホテル東京2階「葵」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて563名の出席があった。祝賀会では、高木聖雨代表理事・理事長ならびに田中壮一郎代表理事・会長の主催者代表挨拶から始まり、株式会社共同通信社代表取締役常務 岩永陽一氏の共催者挨拶、衆議院議員・書道国会議員連盟会長 河村建夫氏の来賓祝辞、文化功労者で日本芸術院会員の井茂圭洞名誉顧問による書家代表挨拶へと続き、衆議院議員・書道国会議員連盟会長代行 塩谷立氏の乾杯発声で祝宴に入った。

公募臨書の併催で入選者やその家族等の来場者、また、隣接する企画展の影響で外国人の来場者が増加傾向にある一方で、展覧会場への出品者等の来場が年々減少傾向にあり、ギャラリートークでの盛況な集客があるにもかかわらず、入場者数は8千名台にとどまった。

(4)九州展

会 期 令和元年6月27日（木）～7月2日（火）
前期 令和元年6月27日（木）～6月29日（土）
招待（く～わ）・秀拔選（た～わ）を展示
後期 令和元年6月30日（日）～7月2日（火）
招待（あ～き）・秀拔選（あ～そ）を展示
会 場 福岡アジア美術館（7階企画ギャラリーABC）
主 催 （公財）全国書美術振興会 西日本新聞社
後 援 文化庁
開催披露祝賀会 令和元年6月28日（金）12:30～13:45
ホテルオークラ福岡 4階 「平安の間」
出席者 109名
ギャラリートーク 令和元年6月29日（土）14:00～15:00
福岡アジア美術館（7階企画ギャラリー）
講師 松清秀仙評議員・現代書壇代表作家

九州展の出品数は、巨匠15点、代表101点、委嘱10点、招待137点、秀拔選217点、合計480点、会期中の入場者数は1,500名だった（前回46回展の出品総数は473点、入場者数は1,325名）。西日本新聞社の紙面協力を得ている。

例年、展覧会場は福岡アジア美術館の7階企画ギャラリーと8階交流ギャラリーの両スペースを借用しているが、前回、今回とも美術館側の事情により、7階企画ギャラリーしか借用できず、中間日に当たる6月29日（土）の夜間に招待、秀拔選作品の掛け替えを行うことで対応した。九州展の開催時期は梅雨入りと重なり、高確率で台風の影響を受けやすく、今回も九州地方、特に南九州は連日の大雨となったが、大幅に減少した昨年の入場者数よりはわずかに増加している。

会期2日目の6月28日（金）の12時30分から、ホテルオークラ福岡4階「平安の間」において開催披露レセプションを行い、来賓・出品書家・招待者合わせて109名の出席だった。レセプションでは、高木聖雨代表理事・理事長ならびに田中壮一郎代表理事・会長の主催者代表挨拶、西日本新聞社取締役営業本部長 大久保昭彦氏から共催者挨拶があった後、九州国立博物館館長 島谷弘幸氏の来賓挨拶・乾杯発声で祝宴に入った。

2. 第46回および第47回「日本の書展」巡回展

会 期 第46回巡回展 平成30年7月～平成31年4月
第47回巡回展 令和元年7月～令和2年4月
会 場 第46、47回展とも地方8カ所で開催
主 催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社 各地元新聞社
後 援 文化庁

現代書壇巨匠と現代書壇代表巡回作品（第46回展112点、第47回展116点）については、関西展、中部展、東京展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方8カ所を巡回。
現在、第46回展は終了、第47回展は1番目の富山展のみ終了した。

第46回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地	地元主催新聞社	会 場	会 期	地元作品数	入場者数
1	富山 富山市	北日本新聞社	富山県民会館	30.7.12～7.15	183	1,686
2	鳥取 米子市	山陰中央新報社	米子市美術館	30.9.1～9.4	200	619
3	青森 青森市	東奥日報社	青森市民美術展示館	30.9.6～9.10	275	654
4	広島 広島市	中国新聞企画サービス	福屋広島駅前店 8・9階催事場	30.9.27～10.2	595	14,053
5	岡山 岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階 葦川会館	30.10.17～10.22	494	4,800
6	奈良 奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	31.2.20～2.24	195	3,628
7	長野 長野市	信濃毎日新聞社	ながの東急百貨店	31.2.28～3.5	224	1,882
8	茨城 水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	31.4.13～4.18	265	1,825

※白部分が、今年度（平成30年度）事業

第47回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地	地元主催新聞社	会 場	会 期	地元作品数	入場者数
1	富山 富山市	北日本新聞社	富山県民会館	1.7.19～7.22	171	1,894
2	島根 松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	1.8.29～9.2	200	750
3	青森 青森市	東奥日報社	New's TO-0 ビル3階催事場	1.9.6～9.9	267	788
4	広島 広島市	中国新聞企画サービス	福屋広島駅前店 8・9階催事場	1.10.3～10.8	579	16,486
5	岡山 岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階 葦川会館	1.10.10～10.15	491	4,963
6	奈良 奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	2.2.19～2.23	—	—
7	長野 長野市	信濃毎日新聞社	ながの東急百貨店	2.2.27～3.3	—	—
8	茨城 水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	2.4.11～4.16	—	—

※白部分が、今年度（平成30年度）事業

3. 第47回「日本の書展」東京展 公募臨書

会 期 令和元年6月13日（木）～6月23日（日） 6月18日（火）は休館日
前期展示 令和元年6月13日（木）～6月17日（月）の5日間
後期展示 令和元年6月19日（水）～6月23日（日）の5日間
会 場 国立新美術館（展示室1Dの一部 51～53室の3室）
主 催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社
後 援 文化庁

2012（平成24）年の第40回から東京展に新設・併催された公募臨書も今回8回目となる。出品点数は975点で、前回の952点より23点増で、ほぼ安定した点数を保っている。

平成30年12月20日に、国立新美術館審査室で審査委員10名による入選・落選の審査鑑別を行ったが、入選率50%を念頭に置いた審査をし、結果、入選数は464点、入選率は47.6%となった。内訳は下表参照。

出品整理料は前回同様2,000円。入選作品は表具をして国立新美術館の51～53の3室に展示、壁面展示は2段掛けとした。

展示後、入選者には表装作品と共に入選證を送った。

第47回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <展示方法・展示期間別内訳>

	壁面展示	机上展示		計
	たて	よこ	篆刻	
前期展示	174	52	6	232
後期展示	174	52	6	232
入選数合計	348	104	12	464

第47回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <作品ジャンル別内訳>

	漢 字		か な		篆 刻
	たて	よこ	たて	よこ	
	3 3 2	1 2	1 6	9 2	1 2
	3 4 4		1 0 8		
入選数合計	4 6 4				

Ⅱ.「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム(ワークショップ)

名 称 筆もじにトライ! 2019 ～オリジナルうちわを作ろう～

日 時 令和元年8月5日(月)

Aコース 13:00～14:10

Bコース 15:00～16:10

令和元年8月6日(火)

Cコース 10:30～11:40

Dコース 13:00～14:10

Eコース 15:00～16:10

令和元年8月7日(水)

Fコース 10:30～11:40

Gコース 13:00～14:10

Hコース 14:40～15:50

場 所 日本芸術院会館 講堂

参加費・材料費 無料

対 象 3歳～小学校3年生までの子ども(保護者同伴)

定 員 各コース30名(3日間で8コースを設定) 計240名

助 成 独立行政法人国立青少年教育振興機構・子どもゆめ基金助成活動より67万5千円の助成

指導者 上籠鈍牛氏、鹿倉碩齋氏、角田大壤氏、畠田心珠氏、堀一惜氏、松浦龍坡氏
青木聰雪氏、芹澤翔華氏

広 報 チラシ6,500部を以下に設置、配布、掲載

<設置>

・第47回「日本の書展」展覧会場

<配布>

・台東区立小学校・幼稚園、台東区内私立幼稚園・こども園

<掲載>

・全国書美術振興会ホームページ

・公式 twitter

・子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」(無料掲載)

子どもゆめ基金の採択、助成は昨年に続き2回目となる。昨年は2日間、5コース、体験設定数120名(実際には113名が体験)だったのを、今年は3日間、8コース、240名設定にして申請したため、助成金も41万円から67万5千円に増額した。また、今年は日本芸術院会館の理解、協力を得て、講堂を無料で提供いただくことができた。

子どもは、床で座布団に座っての体験だったが、姿勢よく正座で取り組む姿も見受けられた。「文字の成り立ち」をクイズ形式で出題する、水書き用紙で練習をさせる、固形墨の墨磨り体験を行う、うちわには子どもの喜びそうな図柄を40種程準備する、完成したうちわには筆もじにトライ！のスタンプを押印する、完成したうちわを持って記念撮影をするなど、子どもが楽しく飽きずに書道体験や物作りができる様々な工夫、夏休みの思い出になるような演出を心掛けた。

また今回は、子ども向け書道活動に対しての助成金という国の施策があることを書道関連団体に広く周知し、書道の保護継承運動に繋げる目的で、書道雑誌等を発行する各社に対しプレスリリースを行った。1社が取材に訪れ、体験の様子が記事に掲載された。

参加人数 202人（3日間合計）

参加年齢分布

	A	B	C	D	E	F	G	H	年齢別計	参加年齢の割合
3歳	2	0	2	2	1	5	2	2	16	7.9%
4歳	4	5	3	3	3	3	2	7	30	14.8%
5歳	3	1	4	2	3	4	3	7	27	13.4%
6歳	1	2	3	0	0	0	0	1	7	3.5%
小1(6～7歳)	7	0	3	7	3	3	4	6	33	16.3%
小2(7～8歳)	3	7	9	7	8	4	8	4	50	24.8%
小3(8～9歳)	4	9	3	3	6	3	6	5	39	19.3%
クラス計	24	24	27	24	24	22	25	32	202	

収支状況

収 入		支 出	
助成金交付決定額	655,000	謝金・交通費・資料作成費（講師8名・アルバイト2名）	316,600
附帯事務費	20,000	会場費	0
		通信運搬費（郵便・佐川急便）	58,730
		備品・消耗品費	207,701
		印刷費（チラシ）	46,190
		レンタル費（パイプ椅子）	48,600
		その他	2,730
収入計	675,000	支出計	680,551

Ⅲ. 書写・書道教育推進協議会

活動報告は別紙にて。

Ⅳ. 日本書道ユネスコ登録推進協議会

活動報告は別紙にて。

Ⅴ. 機関誌および書美術に関する出版物刊行ほか

1. 展覧会作品集等の制作

(1) 第47回「日本の書展」直轄展

① 図録 4,480部

現代書壇巨匠・現代書壇代表・全展委嘱作品図版をオールカラー刷りで掲載。

巻末には、全展招待・秀拔選作家を含む全出品者名簿を掲載。

各出品者には、1冊ずつ贈呈。

② 出品者本人の作品ブロマイド 7,626枚

展覧会名・姓号入り 2Lサイズ カラー写真 非売品。

各出品者には、出品者本人のブロマイドを2枚ずつ贈呈。

（出品者3,663名×2枚ずつ、現代書壇巨匠15名のみ×20枚ずつ）

- ③出品者名簿 関西展 13, 300枚
 中部展 11, 200枚
 東京展 21, 000枚
 九州展 6, 300枚
- ④案内はがき 125, 000枚
- ⑤ポスター 555枚
- ⑥外国人向け展覧会概要リーフレット 300枚

(2)第47回「日本の書展」巡回展

図録（直轄展と同図録） 900部

(3)第47回「日本の書展」公募臨書

- ①入選者名簿 1, 800枚
- ②入選證 530枚

(4)第48回「日本の書展」公募臨書

出品要項 21, 300枚

2.「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム「筆もじにトライ！2019」の制作

応募チラシ 6, 500枚

3. 機関誌「書美術」第36号

4, 300部 平成31年3月1日に発行

4. ホームページの更新

VI. 書美術功労者の顕彰

文化功労者を受けられた井茂圭洞名誉顧問、恩賜賞・日本芸術院賞を受賞された真神巍堂理事の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以 上